

# カネ

入るお金より

出る負担が重い。

歳入は増えていても、子育て関連費などの社会保障費にかかるコストの伸びが上回っているため、貯金を取り崩しています。



情報を集め、

使う力が必要。

市民の声やデータを集め、業務改善や施策の見直しに生かすことが、これまで以上に重要になっています。



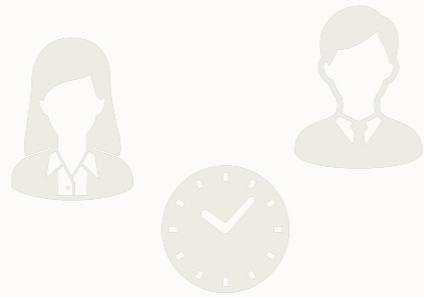
# 情報

# ヒト

人が足りない。

時間も足りない。

人材確保が厳くなることが予想され、限られた人数と時間で必要なサービスを続けるには、力の配分を考えなければいけません。



施設の維持に

大きな負担。

公共施設の多くが更新時期を迎えています。直しながら使い続けるにも、新しく整えるにも、大きな負担がかかります。



# モノ

## 行政経営が必要な4つの理由

# 03 | 限られた力を、必要なところへ。

必要なサービスを守り、未来への投資を続けるために。限られた資源で糸満市総合計画を効率的・効果的に取り組むため、後期基本計画の第6章に基づいて、「糸満市行政経営プラン」を進めます。

これまでの改革、その先へ

糸満市ではこれまで、行政改革大綱に基づき、組織の見直しや職員数の適正化、公共施設の見直し、民間委託の推進など、さまざまな行政改革に取り組み進めました。そうした積み重ねは、まちづくりに必要な財源を確保し、行政サービスを支えるうえで大切な土台となってきました。

しかし、これからは「見直す」だけでは足りません。必要なサービスを守り、未来への投資も続けていくためには、限られた力をどう生かすかまで考える段階に入っています。そこで糸満市は、これまでの行政改革を土台にしながら、その先にある「行政経営」へと考え方を進めます。

増える負担、限られる資源

近年は、市税収入などの歳入が増えていても、それを上回るか

限られたヒト・モノ・カネ・情報を、これからの暮らしを支える力に変えていく。

たちで行政コストが膨らんでいきます。社会保障関係費の増加、老朽化した公共施設の維持管理や更新、複雑・多様化する市民ニーズへの対応など、行政に求められる役割は、これまで以上に重くなっています。

加えて、人材の確保は以前より難しくなり、時間も、時間も、どれも限りがあるなかで、何を優先し、どこに力を注ぐのかを考えなければ、必要な行政サービスを続けていくことは難しくなります。いま求められているのは、限られた資源を前提にした現実的な運営です。

守るための行政経営

行政経営プランは、削ることだけを目的にした計画ではありません。限られた資源を必要とするところへ生かし、大切なサービスを守りながら、これから先の未来を支える投資も止めないことを

目指すものです。

こうした考え方の違いを整理すると、次のようになります。

見直しや削減で財源を確保

組織・定員・施設・経費を個別に見直す

行政内部の改善が中心



限られた資源をどう配分し、質を高めるか考える

ヒト・モノ・カネ・情報を一体で考える

市民サービスを続けるための経営判断へ

これまでの行政改革が「見直し」で、これからの行政経営は「選び方」と「生かし方」を考える取り組み。糸満市は、限られた力をどのように未来へつないでいくのかを見据えながら、行政経営プランを進めていきます。